

2023 年度 第 2 回放送番組審議会

開催日時:2024 年 3 月 21 日(木) 14 時 00 分～15 時 00 分

開催場所:CCNCコミュニティホール

参加者(委員):榊原 進 会長、細川 敦子 副会長、高倉 志織 委員、
二宮 達好 委員、日比 桂子 委員、山本 和久 委員

欠席者(委員):石垣 由貴子 委員、榊原 寛二 委員、

(会長・副会長、五十音順)

参加者(CCNC):松永 光司 代表取締役社長、江口 正洋 取締役 地域情報課担当、
富田 好 地域情報課 課長、築山 一誠、柴田 かごめ

■ 審議番組 ニュース CCNC 防災特集「今からできる地震対策」

1. 番組概要

- ・地域を知り尽くした防災キーパーソンによる地域に特化した防災啓発
(今回ご出演いただいた原真理さんは、あいち防災リーダー会の会長)
- ・見やすさを意識して番組尺は短め(10 分以内)
- ・大雨による水害対策は春以降に放送予定

2. 企画のポイント

能登半島地震を踏まえ、防災リーダーが地域の皆様に「今一番伝えたいこと」に内容を絞り込んだ

3. 審議のポイント

- ・知多半島南部に住む人たちにとって、地震防災を身近に感じられる内容であったか？
- ・地域の防災キーパーソンが解説する防災啓発番組をシリーズとして見たいか？

4. ご質問・ご意見(会長・副会長、以下五十音順)

榊原 進 会長

身近な場所で撮影した映像だから、自分たちに置き換えて考えることができた。知多半島が能登半島と似ているため、同じような被害状況がでることを感じ取れた。YouTube で興味がある内容であっても 30 分や1 時間のものは飽きてしまうことが多いため、今回の 10 分という尺は丁度良かった。

伝えたい・大切である部分は、強いメッセージ性でメリハリをつけて表してほしい。

短い時間で色々な内容を取り上げるシリーズで制作してほしい。

細川 敦子 副会長

映像は派手にあおるような話題ではなかったが、自分の住んでいるまちに置き換えて視聴することができた。10分という時間の中で、伝える内容として良かった。

今回取り上げていた美浜町・南知多町以外の地域はどうか、いろいろなテーマをシリーズのように放送してもらえると自分のためになるし、自分事のように考えられるきっかけにもなる。1回聞いただけでは忘れてしまうから、大事なポイントや実際にまち歩きの風景を見るなどを、10分程度のシリーズとして取り上げてほしい。その中でまち歩きをするのが難しい高齢者へ、地域とのつながりの大切さを伝えるような内容を番組内に盛り込んでほしい。自分の家の近くが映ると印象深くなるから、こういった放送で地域とのつながりを作るきっかけを作してほしい。

高倉 志織 委員

知らなかったことは覚えているが、内容全体を思い出そうとしても残っていない。インタビューと大切なことは分けて、メッセージ性を重要にすることで、視聴者の知らなかったことが脳にインプットされると思う。

この地域ならではの具体的に用意した方がいいものを分かりやすく紹介して、災害に対して危機感がない人や少しの時間で内容を知りたい人に対しても届けられるといいと思う。

災害時に「誰と逃げたらいいか分からない」、「子どもたちはどうしたらいいのか」などを伝えるために、シリーズ化をしてほしい。10分という短い尺が良かったため、一個一個のテーマに沿ってやると、もっと分かりやすくなると思う。

より自分事として視聴してもらうために、地元の子どもたちと一緒に番組を作ることで、見てもらえる上に身近に感じてもらえると思う。この地域でこの放送を見ている特典として、「子どもたちが大人になった時に災害に対する知識を持っていることが宝物になったらいいな」と思いながら、このような番組が出来ていくと面白くなると思う。

二宮 達好 委員

知多南部だけでなく、全国民にとっても関心の高い内容だった。

出演していた原さんの話は参考になった。コメントの中でもあった能登半島と知多半島はとてもよく似ているという言葉は、防災会議や講習会、研修会などに参加するとよく聞く言葉である。道路が寸断されることによっておこる孤立、津波、空き家の倒壊など、能登半島地震によって知多半島の地震対策の参考になった。

今からできる地震対策として避難経路の確認、危険個所の検証などがあげられるが、映像の中で地震によって倒壊しそうなブロック塀沿いを歩きながら話すことは説得力があった。こういった番組を通して、一人でも多くの視聴者が危機感を高めて防災対策を進めてほしいと思う。

日比 桂子 委員

家の近くの崖が崩れた場合等も含め、今まで思っていた防災ルートが正しいのかを考える機会になった。

シリーズ化するとして、映像の尺が短いのは見やすいためメリットである。視聴者も身近な風景だからこそ自分事として考えられる。

能登半島地震から備蓄、特に食料が大事だと感じた。問題定義として、家族で一週間生き延びられる食料・飲料の量を取り上げてほしい。

山本 和久 委員

能登半島では電気・ガス・水道などのライフラインが途絶えるほどの相当な被害が出た。

ケーブルテレビは有線であるから、被災後の情報伝達で相当なダメージを食らう。そのため、地震がくるまでにどれだけの準備ができるか、啓発できるかに重みを置いた方がいい。

原さんのインタビューは別コーナーで置いて、大事なところは二度三度念押しするように画面いっぱいの文字で出した方がよい。視聴者は情報に慣れているので、工夫して強いメッセージを残すような番組になるとよい。

■欠席委員 書面でのご質問・ご意見(五十音順)

石垣 由貴子 委員

この地域の住民にとって地震防災に対する意識は、地域での啓発活動を通じ日頃から身近に感じていると思われる。しかし、まだ他人事のように思っている人や対策が不十分な人がいることは間違いない。番組内容は、日頃から意識すること、気を付けること、できる対策などがわかりやすくまとめられていて、地域のケーブルテレビが発信する地震防災の話題は、よりリアルで防災・減災について身近に感じることができる。このような内容の発信は、目や耳にする機会が多いほど人に刺激を与え興味を持ってもらえる。地域内で実施される講習への参加や意識向上のきっかけにつながる。

防災啓発はケースバイケースで様々な情報があるので、シリーズ化もしくは継続して発信し続けることは、地域住民の災害に対する意識向上と非常時の対策につながり、地域に根差すケーブルテレビには発信し続けてほしいと思う。